

新武道館整備事業について

1 目的

施設規模及び建設候補地の選定にかかる検討結果について報告するもの。

2 背景

- ・現在の市武道館は昭和 52 年の供用開始から築 49 年が経過し、老朽化に加えて吊り天井の脱落対策技術基準への適合を含む大規模改修が必要となっている。
- ・令和 6 年 5 月 10 日の市民文教委員会において、令和 5 年度に実施した新武道館整備計画の策定状況報告の中で建設候補地及び施設規模等を公表した。
- ・令和 7 年 8 月に浜松アリーナリニューアル整備事業が入札不調となったことに伴う整備計画の見直しなどにより、新武道館に求める役割に変化が生じた。

3 整備概要

(1) 事業の位置付け

区分	基本計画	令和 7 年度検討結果
①役割	プロフィット化する浜松アリーナ利用者の受入施設のひとつ	道の駅整備と併せて篠原地区周辺エリアの賑わい創出
②建設地	雄踏総合公園、可美総合公園、遠州灘海浜公園篠原地区 (ToBi0 北側)	遠州灘海浜公園篠原地区 (ToBi0 北側)
③用途	武道競技のほか、パラスポーツなど多種目が可能な施設 (フロアに支柱設置が必要な競技は不可)	武道競技やパラスポーツ、バスケットボールなど体育館を使用する競技全般に対応可能な施設 (多目的武道館)

(2) 建設地

- ・篠原地区は、県が進める公園整備のほか、道の駅整備が計画されており、新武道館利用者が道の駅を利用するなど相乗効果が期待される。
- ・篠原地区は他の候補地と比較し地盤が良好であり、建設コスト面での優位性がある。

	篠原地区	可美公園	雄踏総合公園
基礎種別 (建築面積約 6000 m ²)	直接基礎 ・トビオ：地盤改良 H=2m	杭基礎 ・総合センター：杭 H=12m	杭基礎 ・雄踏総体：杭 H=14m
既存解体	なし	あり (工作物、樹木等)	あり (工作物、樹木等)
工期・工事時間制約	通常工期 ・時間制約なし	既存解体→追加工期 ・時間制約あり (公園利用者、近接住宅街等への配慮)	既存解体→追加工期 ・時間制約あり (公園利用者、近接住宅街等への配慮)
工事用地 (現場事務所等)	建設地内で確保可能	公園内又は敷地外で確保 → 要追加費用	公園内又は敷地外で確保 → 要追加費用

(3) 施設規模

剣道や卓球など 1,000 人規模の大型市内大会に対応可能な B 案とする。

- ・ B 案: メインアリーナ 56m×42m (剣道 12 面)、サブアリーナ 35m×35m (剣道 4 面)

4 整備スケジュール

令和 8 年度 基本設計

令和 9 年度～ 実施設計

令和 10 年度～ 造成工事

令和 11 年度～ 建設工事、令和 14 年度供用開始予定

令和 6 年 5 月 10 日

市民文教委員会

スポーツ振興課

新武道館整備基本計画策定業務について

1 経過

- ・ 現武道館は築 46 年が経過、老朽化や特定天井の改修など法定を含む大規模改修が必要
- ・ 近隣への騒音や駐車場不足、空調設備未設置による熱中症対策などが課題
- ・ 浜松市剣道連盟等の利用団体からも建替えについて要望あり
- ・ 令和 5 年度、新武道館整備基本計画において、施設規模及び建設地を調査

2 概要

- ・ 新たな武道館は、武道競技のほかパラスポーツなど多種目スポーツが可能な施設を想定
 ※支柱用の床金具等は非設置を想定（卓球、フットサル、新体操、バスケットなど）
- ・ プロチームや興行などプロフィット化を軸とする浜松アリーナ利用者の受入先の一つとしても想定
- ・ 建設地については、既存スポーツ施設の同敷地内又は隣接地等で、必要面積の確保が可能と想定される、雄踏町（雄踏総合公園）、増楽町（可美総合公園）、篠原町（トビオ北側）を候補として整理（敷地面積の確保、公共交通機関の利便性など）

3 整備案について

（1）新武道館について（別紙）

A 案）メインアリーナ 56m×35m（剣道 8 面）＋ サブアリーナ 35m×35m（剣道 4 面）

B 案）メインアリーナ 56m×42m（剣道 12 面）＋ サブアリーナ 35m×35m（剣道 4 面）

※サブアリーナは柔道場（4 面）を兼ねる

【施設概要】

項目	A 案	B 案※
概算工事費	49.9 億円	53.5 億円
建築面積	5,602 m ²	6,064 m ²
延床面積	7,294 m ²	7,847 m ²
観客席数	固定：903 席（車いす用：15 席） 仮設：1,344 席	固定：983 席（車いす用：15 席） 仮設：1,680 席
他競技利用の面数	フットサル 1 面、ハンドボール 1 面、 新体操 6 面、卓球 20 台、 ボッチャ 9 面、ゴールボール 3 面	フットサル 2 面、ハンドボール 2 面、 新体操 9 面、卓球 24 台、 ボッチャ 10 面、ゴールボール 3 面
駐車台数	一般車両 335 台、大型バス 20 台、 多目的 6 台	一般車両 310 台、大型バス 20 台、 多目的 6 台

◎共通：運営経費：9 千万円/年間（サーラグリーンアリーナ程度を想定）

◎A 案については、ロールバック席を追加した場合：800 席の拡大可能（約 2.4 億円増）

【参考：既存の浜松武道館・静岡県武道館との比較】

	建築面積	延床面積	競技面積	座席数	駐車台数
浜松武道館	1,628.12 m ²	2,056.82 m ²	4面	400席	130台
静岡県武道館	-	12,914.00 m ²	10面	2,440席	105台

※静岡県武道館：競技面積・座席数は、大道場・第一道場・第二道場を合算した数

【参考：市内体育館とのメインアリーナ面積比較】

	浜松アリーナ	▼ B案:2,352 m ²	▼ A案:1,960 m ²	
	浜松アリーナ	サーラグリーンアリーナ	引佐総合体育館	雄踏総合体育館
メイン	65×44m (2,860 m ²)	53×38m (2,014 m ²)	50×35m (1,750 m ²)	33×47m (1,551 m ²)
サブ	40×34m (1,360 m ²)	31×27m (837 m ²)	55×22m (1,210 m ²)	17×24m (408 m ²)
観客席	3,544席 (ロールバック1,056席)	1,060席	570席	464席

(2) 候補地について

【必要面積の整理】

① 新武道館の建築用地面積 (約 50,000 m²)

→算定した新武道館の建築面積約 6,000 m²に対し、3 候補地がいずれも都市計画公園で建蔽率 12%と指定されていることから建築用地として必要な敷地面積は最低約 50,000 m²で設定

② 新武道館に必要な最大駐車場面積 (約 13,400 m²)

→各団体の大会時の利用を最大 (ピーク) と想定した場合に必要な駐車場面積を約 13,400 m²で設定

合計 63,400 m²

【条件の整理】 ※調査結果を基にスポーツ振興課で整理

判定項目		雄踏町 (雄踏総合公園)	増楽町 (可美総合公園)	篠原町 (トピオ北側)
用地の確保		公園内の既存施設の廃止及び用途変更等による確保が必要	公園内の既存施設の廃止及び用途変更等による確保が必要	事業認可の変更等により確保可能
建築面積の確保		残建築面積は約 19,000 m ² であり、確保可能	残建築面積は約 7,000 m ² であり、確保可能	建蔽率の見直し等により確保が必要
公共交通機関の利便性	最寄り駅	JR 舞阪駅から車*で約 6 分の移動時間	JR 高塚駅から車*で約 3 分の移動時間	JR 高塚駅から車*で約 5 分の移動時間
	最寄りバス停留所	近傍に 1 箇所のバス停留所あり 時間当たり平均運行本数は平日 0.58、休日 0.60	近傍に 1 箇所のバス停留所あり 時間当たり平均運行本数は平日 0.67、休日 0.53	近傍に 1 箇所のバス停留所あり 時間当たり平均運行本数は平日、休日とも同ダイヤで 0.48

* 自動車移動距離 (郊外) : 約 420m と想定

4 今後の進め方 (令和 6 年度)

- ・令和 5 年度基本構想に基づき、発注支援業務の中で規模や建設地などを最終検討
- ・浜松アリーナ、他の体育館改修などによる休館期間等を勘案、大会を含む利用者への影響が最小限となるようスケジュールを調整

[A案：メインアリーナ8面+サブアリーナ4面]

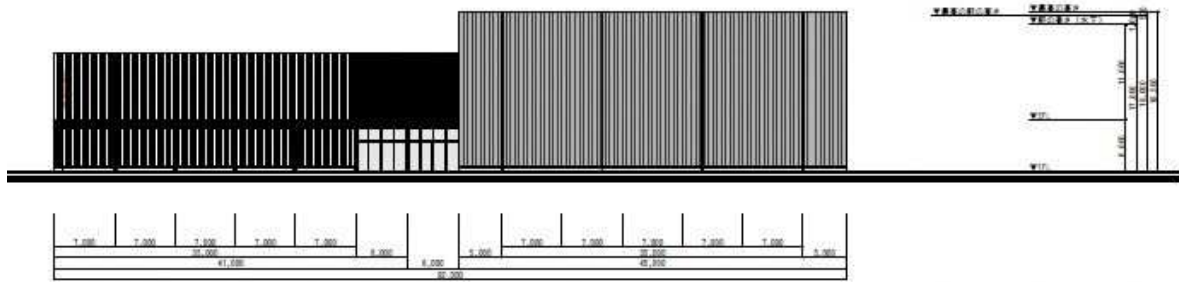
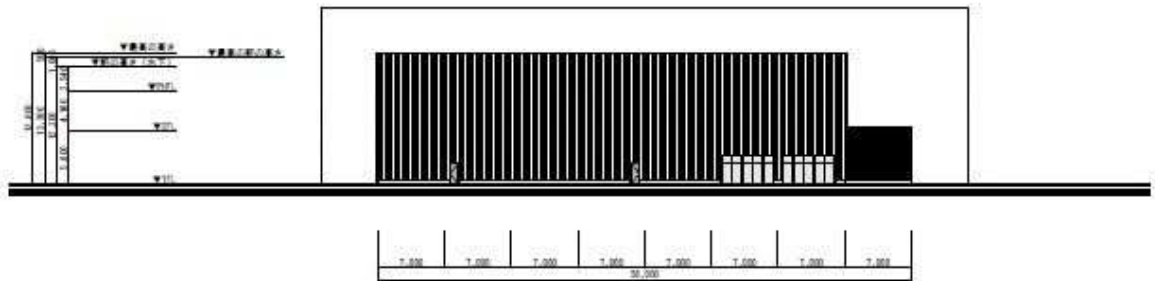
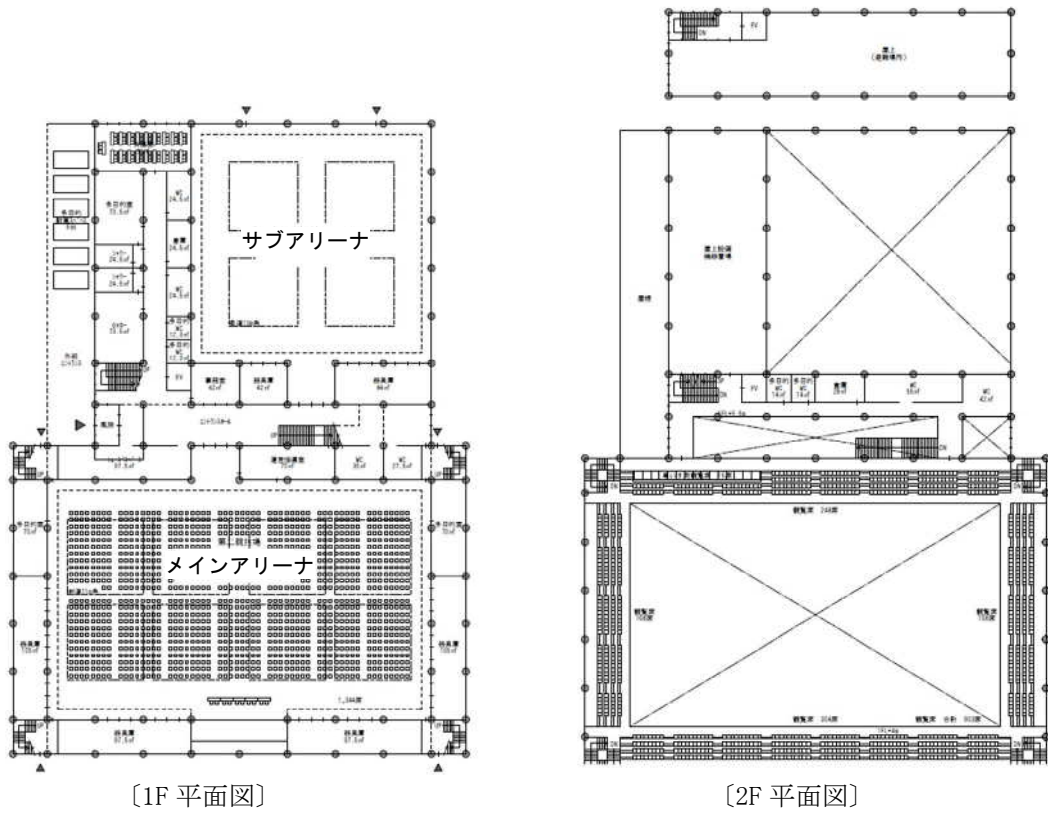
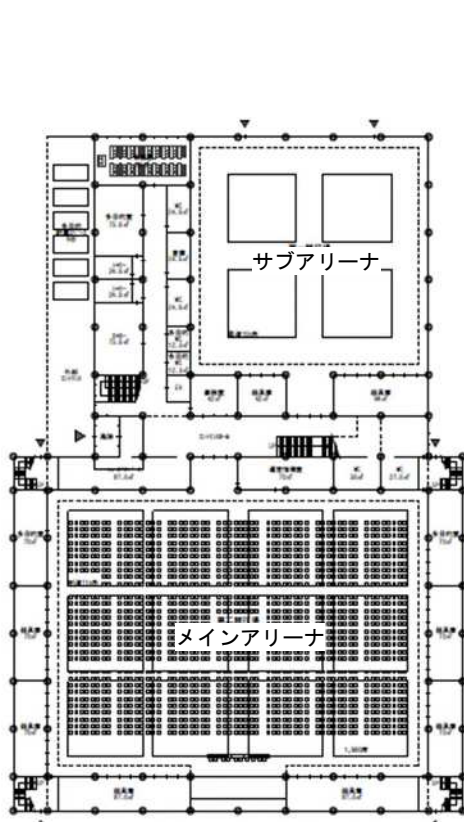
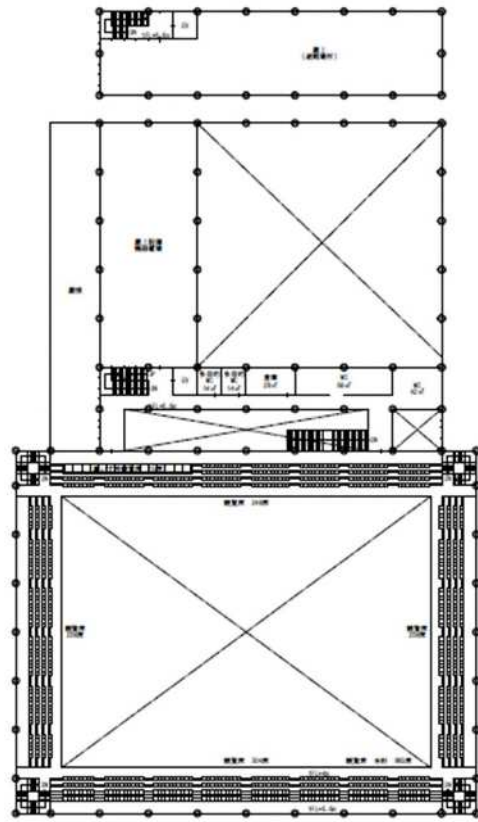


図1 モデルプラン (A案)

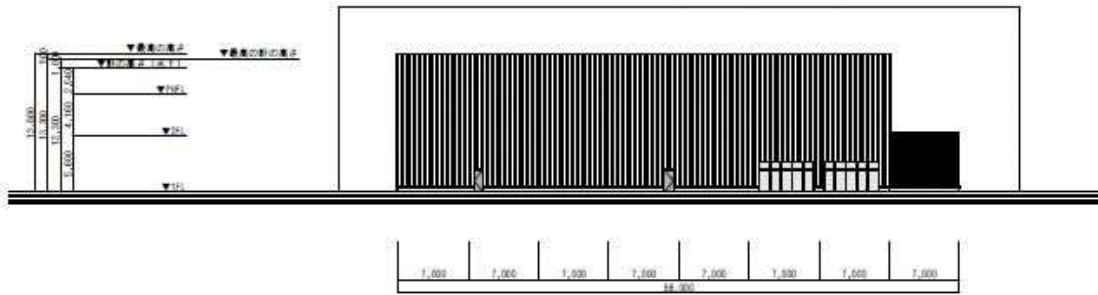
〔B案：メインアリーナ 12面＋サブアリーナ 4面〕



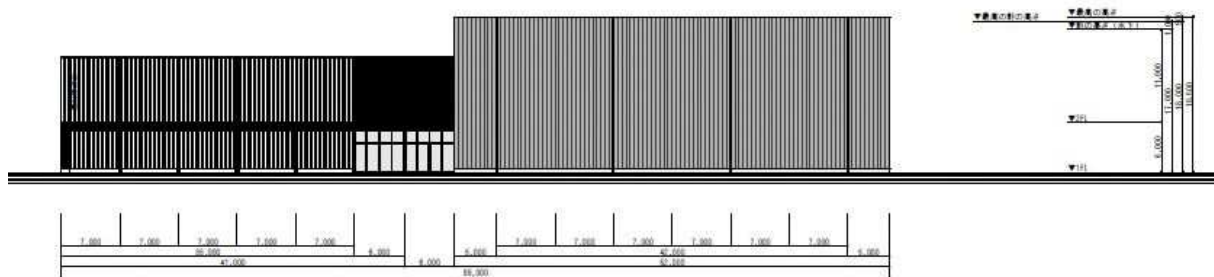
〔1F 平面図〕



〔2F 平面図〕



〔短辺方向 立面図〕



〔長辺方向 立面図〕

図 2 モデルプラン (B案)



[イメージパース]

図3 モデルプラン（B案）

※モデルプラン（A案）は、B案より長辺方向のスパンが短くなるが、外観イメージは大きく変わらない。